

令和3年度

青少年ピースフォーラム(オンライン開催)
参加事業報告書



松 戸 市

目 次

青少年ピースフォーラム（オンライン開催）参加事業にあたって	・ ・	1
世界平和都市宣言	・ ・ ・ ・ ・	2
青少年ピースフォーラム（オンライン開催）参加者募集要項	・ ・ ・ ・	3
参加者名簿	・ ・ ・ ・ ・	5
青少年ピースフォーラム（オンライン開催）日程	・ ・ ・ ・ ・	6
参加者の報告	・ ・ ・ ・ ・	8
西山 <small>にしやま</small> みなみ	（第四中学校 1学年）	・ ・ ・ ・ ・ 9
國崎 <small>くにさき</small> 美和子 <small>みわこ</small>	（小金中学校 2学年）	・ ・ ・ ・ ・ 11
佐瀬 <small>させ</small> 怜奈 <small>れな</small>	（六実中学校 1学年）	・ ・ ・ ・ ・ 13
田中 <small>たなか</small> 美沙妃 <small>みさき</small>	（小金南中学校 3学年）	・ ・ ・ ・ ・ 15
倉重 <small>くらしげ</small> あすか	（古ヶ崎中学校 3学年）	・ ・ ・ ・ ・ 17
渡邊 <small>わたなべ</small> 花菜 <small>はな</small>	（牧野原中学校 3学年）	・ ・ ・ ・ ・ 19
岡田 <small>おかだ</small> 隼 <small>はやと</small>	（金ヶ作中学校 2学年）	・ ・ ・ ・ ・ 21
鈴木 <small>すずき</small> 賢心 <small>けんしん</small>	（和名ヶ谷中学校 3学年）	・ ・ ・ ・ ・ 23
松本 <small>まつもと</small> 華子 <small>はなこ</small>	（和名ヶ谷中学校 1学年）	・ ・ ・ ・ ・ 25
前原 <small>まえはら</small> 凛 <small>りん</small>	（光英VERITAS中学校 3学年）	・ ・ ・ 27
公益財団法人長崎平和推進協会 会報「へいわ」	・ ・ ・ ・ ・	29
長崎平和宣言（令和3年8月9日）	・ ・ ・ ・ ・	30



～青少年ピースフォーラム(オンライン開催)参加事業にあたって～

本市は、「世界平和都市」を宣言して以来、毎年様々な平和事業を展開しており、その一つとして「平和大使長崎派遣事業」を実施しております。この事業は21世紀を担う市内中学生を原爆投下の地である長崎市に「平和大使」として派遣するもので、戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを学び、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育てていただくことを目的としております。長崎市滞在中には、「青少年ピースフォーラム」に参加し、全国の同世代の人たちと平和学習などを通して、被爆の実相と平和の尊さを学び、また、平和祈念式典に参列することにより、原爆犠牲者のご冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを捧げています。

平成20年度に始めた本事業は、令和元年度で第12回目を数え、延べ242名を平和大使に任命しました。

しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、「平和大使長崎派遣事業」は実施中止となりました。

令和3年度も、感染症拡大防止の必要から「青少年ピースフォーラム」がオンライン開催となったことを踏まえ、長崎市への派遣は中止しましたが、この「青少年ピースフォーラム」にオンライン参加することで、代替事業としました。市内中学校からの参加者は、オンラインによる平和学習や、全国の同世代の人たちと意見交換などを通して、被爆の実相と平和の尊さを学びました。

また、8月9日には、長崎市平和公園において開催された「被爆76周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」をインターネット中継で視聴しました。

式典は、新型コロナウイルス感染症の影響により規模は縮小されましたが、63の国や地域の代表と、約500人の参列者が集まり、原爆犠牲者の冥福を祈り黙とうを捧げました。核兵器廃絶を求める声が世界的な流れになりつつあることが感じられます。

そして、長崎市長は式典の「長崎平和宣言」の中で、「長崎を最後の被爆地に」という言葉を世界中の人々で共有し、その実現に向けて一人ひとりが考え行動していくことを呼びかけました。

被爆者の平均年齢は83歳を超え、このままでは被爆体験や戦争体験の記憶は風化してしまう恐れがあります。悲惨な記憶を決して忘れないために、そして戦争や核兵器の無い平和な未来を実現していくために、私たちは、直接体験談を聞くことができる最後の世代として真実をしっかりと引き継ぎ、若い世代に継承するということが使命であると考えております。

併せて、世界平和都市宣言における、世界の恒久平和の達成を念願するという理念から、世界各地で続く紛争に対しても目を向け、様々な角度から、広い視野を持った施策を行う必要があると認識しているところです。

本事業を通して、参加者が長崎の地で学び感じた被爆の実相や平和の尊さを周りの人に伝え、一歩ずつでも平和な世界、平和な未来に近づくことを願います。

～ 世界平和都市宣言 ～

我が国は、世界で唯一の被爆国である。
何人も平和を愛し、平和への努力を続け、常に平和に暮らせるよう均しく希求しているところである。

しかし、現下の国際情勢は、緊張化の方向に進み市民に不安感を与えている。かかる状況に鑑み、松戸市は日本国憲法の基本理念である平和精神にのっとり、平和の維持に努め、併せて非核三原則を遵守し、あらゆる核兵器の廃絶と世界の恒久平和の達成を念願し、世界平和都市をここに宣言する。

昭和60年3月4日 松戸市

• World Peace City Declaration

[英語]

March 4, 1985

In the past, our country has experienced the sadness from an Atom Bomb explosion.

This makes our nation determined that history will not be repeated.

All of us yearn for peace, continue making an effort to create peace, and wish that we all can live in a peaceful environment in the future.

However, presently around the world, international affairs are becoming increasingly tense and cause our citizens great concern.

In response to the present turmoil across the world, Matsudo City now more than ever, willfully observe the peaceful spirit that is the fundamental philosophy of the Japanese Constitution.

We will endeavor to maintain nationwide peace, comply with the three anti-nuclear principles and possess the desire to abolish all nuclear weapons and the accomplishment of permanent peace throughout the world.

Therefore, we now declare our city as the "World Peace City".

City of Matsudo

• 世界平和都市宣言

[中国語]

日本是世界唯一的核弹受难国。

我们热爱和平、为和平而奋斗、切望一个和平的生活环境。

但是、当今国际关系仍然紧张、市民深感忧虑。面对动荡的世界、松戸市郑重宣告本市将遵循日本国宪法基本理念、高扬和平精神、为保障和平而尽力、坚持非核三原则、为在地球上废除所有核武器、

建立一个永久和平的世界而积极贡献力量。

令和3年度 青少年ピースフォーラム(オンライン開催) 参加者募集要項



松戸市では、戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうため、長崎市で毎年開催される「青少年ピースフォーラム」へ参加する中学生を募集しています。令和3年度の「青少年ピースフォーラム」は、感染症拡大防止の必要からオンライン開催となります。オンラインによる平和学習や、全国の同世代の人たちと意見交換などを通して、被爆の実相と平和の尊さを学んでいきましょう。

【対象】

・市内中学校に在学する生徒で、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて学ぶ意欲があり、裏面の日程にある青少年ピースフォーラムに両日参加できる人を対象とします。

【定員】

・原則各学校1名とし、全学校で22名（申込者が定員を超える場合は抽選とします。）

【申込方法】

・参加申込用紙に必要事項を記入して、任意の封筒に入れ学校に提出してください。

【提出期限】

・令和3年7月14日（水）までに学校へ提出

★今回の参加者のうち、1・2年生には、令和4年度実施予定の

第13回「平和大使長崎派遣」に優先的に参加できる資格を付与します。

※令和4年度の派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大状況等を踏まえて実施を検討します。令和4年度の派遣事業を実施する際は、資格対象者に改めて参加意向調査を行います。

【平和大使長崎派遣とは】

「世界平和都市宣言」に基づき、21世紀を担う中学生に戦争や核兵器の無い平和な未来を築こうという心を育んでもらうことを目的として、市内中学生を「平和大使」として長崎市に派遣する事業です。

「平和大使」は、松戸市の世界平和都市宣言に基づき、戦争や核兵器の悲惨さ、平和の尊さについて研修や長崎派遣を通じて知識を深め、そこで学んだことや感じたことを周りの人に語り伝えていくことが期待される人です。（平和大使長崎派遣については裏面にも記載しています。）

【 研修日程 】

1 青少年ピースフォーラム

(1) 参加場所 : 松戸市役所

(2) 日 時 : 8月8日(日) 13:00~17:00 青少年ピースフォーラム1日目
8月9日(月・祝) 10:00~16:00 平和祈念式典 LIVE 配信の視聴
青少年ピースフォーラム2日目

※両日参加していただきます。

(3) 内 容 : 青少年ピースフォーラムへの参加

8月9日の平和祈念式典にあわせて、全国の自治体が派遣する青少年と長崎市の青少年とが一緒に被爆の実相や平和の尊さを学習し、交流を深めることで平和意識の高揚を図ることを目的として長崎市が実施しています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の必要から、全国の自治体の派遣ではなくオンラインでの開催となっています。主な内容として、長崎原爆の実相を学ぶ動画等の視聴や、参加者同士の意見交換が予定されています。

※参加後、アンケートの記入を予定しています。



令和2年度 青少年ピースフォーラムの様子
(提供:長崎市/公益財団法人 長崎平和推進協会)

2 令和4年度 第13回「平和大使長崎派遣」参加

今回の参加者のうち、1・2年生は、希望者に限り、令和4年度実施予定の第13回「平和大使長崎派遣」事業に優先的に参加し、原爆投下の地である長崎市での平和学習に臨むことが出来ます。長崎派遣では、青少年ピースフォーラムへの参加、原爆資料館や被爆遺構の見学などを予定しています。

※令和4年度の派遣事業は、新型コロナウイルス感染症拡大状況を踏まえて実施を検討します。令和4年度の派遣事業を実施する際には、資格対象者に改めて参加意向調査を行います。



過去の青少年ピースフォーラム
※現地開催の様子

～ 参加者名簿 ～

<small>にしやま</small> 西山	みなみ	(第四中学校 1学年)
<small>くにさき</small> 國崎	<small>みわこ</small> 美和子	(小金中学校 2学年)
<small>させ</small> 佐瀬	<small>れな</small> 怜奈	(六実中学校 1学年)
<small>たなか</small> 田中	<small>みさき</small> 美沙妃	(小金南中学校 3学年)
<small>くらしげ</small> 倉重	あすか	(古ヶ崎中学校 3学年)
<small>わたなべ</small> 渡邊	<small>はな</small> 花菜	(牧野原中学校 3学年)
<small>おかだ</small> 岡田	<small>はやと</small> 隼	(金ヶ作中学校 2学年)
<small>すすき</small> 鈴木	<small>けんしん</small> 賢心	(和名ヶ谷中学校 3学年)
<small>まつもと</small> 松本	<small>はなこ</small> 華子	(和名ヶ谷中学校 1学年)
<small>まえはら</small> 前原	<small>りん</small> 凛	(光英VERITAS中学校 3学年)

～ 青少年ピースフォーラム(オンライン開催) 日程 ～

8月8日(日)

◆青少年ピースフォーラム1日目

(参加者自宅 または 市役所議会棟3階特別委員会室にて)

市役所に集合し、全員で青少年ピースフォーラムの中継映像を視聴する予定でしたが、台風接近に伴い、全員が会場に集合しての参加を取りやめました。

Zoomによる自宅からの参加に変更した一方、自宅にZoom利用環境がなかった参加者については、身の安全を確保した上で市役所に来て参加しました。

長崎市長の挨拶後、奥村アヤコさんの被爆体験講話を聞きました。また、平和学習では、原爆資料館展示物や、被爆遺構のオンラインガイド(一部ライブ配信)を視聴しました。懸命にメモをとったり、Zoomのチャット機能で質問を行ったり、積極的な取り組むことができました。



〈市役所での参加の様子〉



〈被爆体験講話〉

8月9日(休)

◆10:45～ 平和祈念式典視聴(市役所議会棟3階特別委員会室にて)

「被爆76周年 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」をライブ中継で視聴しました。

厳粛な空気の中、式典が行われ、原爆投下時刻の午前11時2分、サイレンと長崎の鐘が鳴り響きました。原爆犠牲者のご冥福と世界の恒久平和を祈り、黙とうを捧げました。



〈黙とうの様子〉



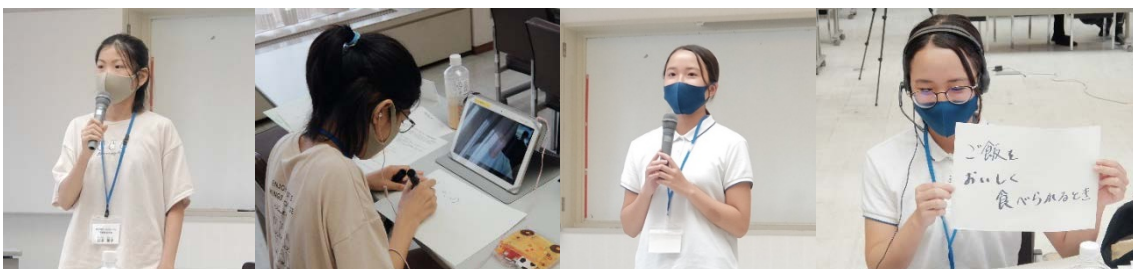
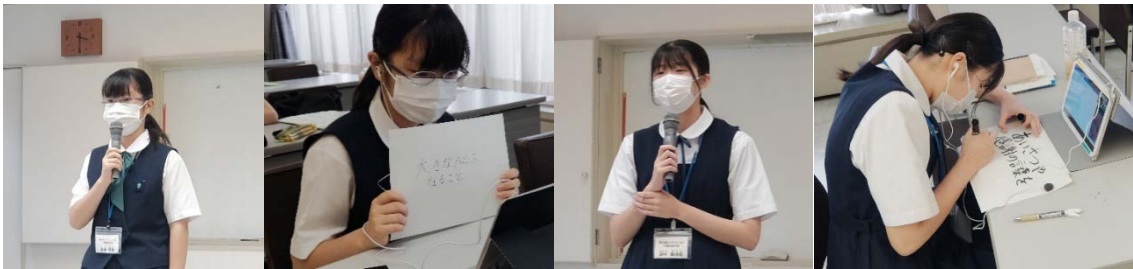
〈長崎市長による長崎平和宣言〉

◆13:30～ 青少年ピースフォーラム2日目

(市役所議会棟3階特別委員会室にて)

午後は、前日に引き続き、青少年ピースフォーラムに参加し、ピースボランティアの方が朗読する紙芝居により、原爆被爆の実相を学びました。

その後、Zoom上でグループに分かれ、事前課題となっていた「あなたが、「平和」だと思えることは何ですか?」という問いについて発表し、そのうえで「平和に過ごすため私にできること」をテーマに、意見交換をしました。全国から集まった同年代の参加者と交流ができ、大変貴重な体験となりました。



參加報告書



「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立第四中学校	学年	年生
氏名	西山 みなみ		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
長崎に一発の原子爆弾が落とされ、一瞬にして町も家族も失った苦しみや、核兵器の恐ろしさを知ることができました。また、二度と悲惨な目にあわせたくないという奥村さんの強い気持ちから私達が1人でも多くの人に戦争の恐ろしさも伝えていこうと思いました。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
長崎に「ファットマン」という原爆が落とされ、爆風・熱線・放射能によってたくさんの尊い命が奪われたことを学びました。被爆の惨状を示す写真や遺品を見学し、改めて原爆の恐ろしさを感じることができました。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
当時の城山国民学校の先生の被爆体験について学習し、昨日まで元気だった近所の人や生徒がなくなるという辛い事実を知りました。私と同じくらいの年の人も多くなくなっていて、戦争は二度とやってはいけないと感じました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
私が平和だ"と思うことは、家族と一緒に過ごすことです。戦時中は、家族とあたり前に過ごすことが難しかった"と思うからです。また、平和の大切さやありがたみについて話し合い、平和であることに感謝しようと思いました。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

世界中を平和にするために私ができることは、戦争の恐ろしさを色々な人に伝えていくことです。二度と戦争を起こさないためには大切なことだ"と"思います。ささいなこと"から取り組むという話し合いをし、様々な意見が出ました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

平和について話し合い、平和の大切さについて考えを深め合うことができました。また、日本だけではなく、すべての国が戦争のない平和な世界を実現していくために、私にできることもこれから考え、行動していくべ"ま"だ"と"感じました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だ"と"思いますか。

戦後76年が経ち、戦争を実際に体験した方が少なくな"って"しま"っ"て"います。しかし、戦争や核兵器の恐ろしさを決して忘れてはいけません。私達のような若い世代が、あたりまえではない「平和」の尊"さ"や戦争の悲惨さを次の世代に語りついで"い"く"こ"と"や、活動をするこ"と"だ"と"思います。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

奥村さんの被爆体験講話を聞き、大切な家族を一瞬にして全員失ってしまったことに衝撃を受けました。そして、奥村さんはその時から今までずっと辛い気持ちを抱えて生きてこられました。少しでも多くの人に核兵器の恐ろしさを伝えたいとあ"っ"しゃ"っ"ていたので、私達もその気持ちを受けつぎ、かけがえのない平和を守って"い"ま"い"たいです。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	小金中学校	学年	2 年生
氏名	國崎美和子		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
奥村アヤ子さんは講話で、「被爆体験を話すことに最初 は前向きではなかったけれど、ある人との出会いがきっかけで 話すことに前向きになれた。」と仰っていました。私は今回の 講話をきっかけに、戦争の悲惨さ、平和の尊さを訴えていきます。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
資料館の展示品や写真、遺構などは戦争の悲惨さを 物語っていました。原爆の恐ろしさや、被爆者の苦しみと共に 二度と戦争はしてはいけないということを改めて強く感 じました。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
当時の人の気持ちがよく伝わってくるような紙芝居でした。 戦時中、ささいな喜びでどれだけ心が救われるか。人の 死に毎日のように直面するつらさ。今ではどう感じるこ のできない感情が伝わってきました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。 また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
1つ目のテーマは、「平和」だと思ふことは何ですか？という ものです。私は「ささいな事で、友達と笑いあっているとき」だと 考えました。話し合いではなぜそのように考えたかを意見交換し、 あたりまえの事がしっかりできているときに平和を感じるのではない のかと話し合いました。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

2つ目のテーマは、平和な世界に近づくためにできることは何か?というものでした。私は、「募金活動」と答えました。1円からでも始めることができ、広い世代で活動できるからです。話し合いでも同じような意見が多数ありました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

みんなで話し合ってみて、たくさんの意見や考えがでてきました。私は、こんなにも平和のために出来ることがあるのだと驚きました。そして、話し合いをたったの7人ほどで行っただけで、平和に近づく話し合いになったことにも驚きました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思えますか。

平和を実現するためには、世界で協力することが大事だと思います。しかし、いきなり国単位で協力するのは難しいと思います。なので、私たちのように平和について関心を持ち活動したいと思えるきっかけをもらった人が身近な人に発信し、みんなが協力できるような意識をもてたら格段に平和に近づくとと思います。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

1001個のことを1人でなしとげるのは難しいですが、100人で1001個のことをなしとげるのは可能なように、みんなが立ち向かっていくことが大切です。平和のこともそうですが、新型コロナウイルスに翻弄されつつある今だからこそ、みんなで協力し立ち向かうときです。不平不満がたくさんあり、批判してしまう気持ちもわかりますが、みんなで協力してコロナ禍を乗り越えられたらいいですね!頑張らしよう!!

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立六実中学校	学年	/	年生
氏名	佐瀬 怜奈			

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
まず原爆のショックで46年間、記憶喪失になってしまった、ということに原爆の苦しみというものを強く感じました。それと同時に原爆は身体だけではなく、心まで蝕んでいくのだと分かりました。一瞬にして日常を奪ってしまう核兵器それを今後決して使.てはいけな.いと思.いました。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
原爆というものを一番生々しく感じたのは資料館の草かげな.と影の部分だけが残.た資料でした。原爆投下の一瞬前までは何気ない日常だったんだな.と。そのあとに来る恐怖は計り知れないものだったんだと改めて思.い知りました。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
被爆した学校が復活して、とても寒い日でも健気に通.っていた生徒達に胸を打たれました。原爆で疲弊した心のかげかえのない依り所だったんだな.と感.じられました。でも、卒業式で彼ら達が泣いているのを見て傷.つた心は二度と戻.るものではないと思.いました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
緊張や恐怖心をあまり感じず安心して生活出来る事が平和だと考えたので、「よく眠れること」という意見にしました。意見交換では平和だと思.うことをそれぞれ話し合.い、安心して暮.ら.すや「楽しめる」という意見がでて、色々な意見に新しい発見もありました。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

私は人々が些細な事だとなら相手に許せるようになれば揉め事も起きにくく平和になると思、たので「心の器の大きな人になること」と書きました。平和の実現について話し合い「力」で解決しようとするのではなく、話し合ったり「言葉」で解決することが重要だと思、いました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

1つ目のテーマで今は当たり前と感じていることも、他の国にいけば違うこともある。状況が少しでも変われば、それはもう当たり前でなくなってしまうので平和を守ることは重要だと考えました。また2つのテーマで自分が今まで知らなかったことを知ったり、平和についてや地域の平和学習にはどんなものがあるのかを学びました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思、いますか。

私は「平和」を実現するためにすることは個々の意識を変えることだと思、いました。戦争をするのも平和になるのも自分達次第で運命が変わると思、うので、人々が平和を唱えていければ良いと思、います。まず自分達が平和の大切さを意識し、周りの人々に呼びかけたり、必要な場所では発信したりして多くの人々が平和を理想とすれば実現できると思、います。平和について関、心を持ち続けたいと思、いました。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

印象に残、たことは2つあります。1つ目は原爆投下後の長崎の町がほとんどま、さらになてたことです。一面家などの残骸や瓦礫ばかりで威力がとてつもなく凄、いと感じました。そして2つ目は奥村アヤ子さんの言葉です。奥村さんは平和を守り、平和を作り、あなたたちが伝えてほしいとお、っしゃっていました。原爆のみならず戦争や争、いごとで、亡くなる方も大勢いました。そのことを忘れずに平和を守、っていくことが私も大切だと思、いました。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

2つ目のテーマの「平和のためにできること」では、「差別や仲間外れをしないという事」や、「キャンプのふたばなどを集めて病院の人のアクションにおお」などという意見がでましたが、お互いの良い所を見つけ合うことや、日常から相手の事を思いやり、感謝の気持ちをもって行動することが大切ということが共通していると感じました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

色々な地域の人達と話し合う事で自分の意見がより深まり有意義な話し合いができました。また「平和だと感じるとき」や「平和のためにできること」など普段考えないことだけと話し合う事で普段自分が平和にできて幸せに生活できているのだなと気づきました。話し合いは、とても緊張したのですが楽しくできたので良かったです。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思えますか。

今回青少年ピースフォーラムに参加し、500mで被爆した奥村さんのお話しや、資料館、紙芝居を聞き、戦争を絶対にもう二度としてはいけないと強く感じました。そのために、身近な人を私がお笑顔にしていすいつかこの地球の人達が幸せだと思える世界にすればいいなというふうに思いました。そして今回学んだことを身近な人達に沢山伝えていきたいです。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

ピースフォーラムに参加した後に見た市役所の、平和パネル・ポスター展で、広島に投下された原爆リトルボーイや特攻に行った方の手紙なども展示しており、当時の大変さを肌で感じました。また、原爆を投下された後水を求めている人たちや、ひどい火傷を負っている人の絵や写真が展示されていてとても胸が痛くなりました。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立古ヶ崎中学校	学 年	3 年生
氏 名	倉重 あすか		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
<p>今まで、誰かに戦争の話をしてもらい、それを聞くという機会をあまり体験した事がなかったので、とても貴重な経験となりました。爆心地にとっても近く居て、生き残ったからその苦しみなど、より生々しいものを聞けたと思います。</p>
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
<p>展示されている物が想像していた物より痛々しく、目をみりたくなる程でした。しかし、これが原子爆弾の恐ろしさだということと、それ以上に平和を願う、亡くなった方の思いもこもっている様に感じました。</p>
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
<p>名前自体は知っていましたが、旧城山国民学校の教師や生徒の間にどんな話があったのか知りませんでした。皆、生きる事を諦めずに日々過ごそうとしているのが印象的でした。</p>

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
<p>皆が考える「自分が平和だと思ふこと」は、「当たり前の日々を過ごせていること」と言っている人が多かったです。私は、「1人1人がありのままの姿でいられること」と考えました。平和の尊さを、身が知り、考えていく事が大事だと全体で意見がまとまりました。</p>

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

大きく「戦争」と言っても、想像しづらいのが現状だと思います。しかし、大きな国際的な問題でも、案外自分達のすぐそばに原因があると思います。なので、「先入観や偏見を無くすこと」が大切だと思いました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

皆、平和に対するとらえ方や考え方が本当に人様々でした。しかし、最終的に全員が行き着く所は「今も、これから先も、ずっと平和な世界であること」でした。SNSなどで、沢山の意見が飛びかう今の時代、自分の意見と違う意見の人がいても、受け入れる姿勢を作り始める事が大事だと学びました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思いますか。

あらゆる物事の根強い固定観念を取り払い、新しい目線や物事を見つめ直す事が大切だと思いました。新型コロナウイルスで、行動が規制される状況の中、今まで目を背けていた事に目を向け、広い視野と心を持つ事が大切だと感じました。一人一人の心の中に「平和」という種をまいていく人が多くなれば良いと思います。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

私達の世代は、戦争や平和に対して興味を持っていない人が多く、そして知らずとしない人が多いと私は感じます。ある日の学校の授業で戦争関連のことを学ぶ機会があった際、「めんどうくさい」「暗いしやだ」と言っている人が多く、悲しくなりました。嫌な事、苦しい事、暗い事を知らない人間がどんな木トになるのか。同じ悲劇を二度と繰り返さない為にも、多くの事に目を向けていく事が必要だと思いました。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立牧野原中学校	学年	3 年生
氏名	渡邊 花菜		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
奥村さんの講話を聞いて私たちが今学校に行けて勉強ができること、家族みんなで笑って合えることなどの幸せを改めて感じました。お話の中で「防災頭巾を空襲の度つけていたというところから防災頭巾の使い方が違うと思いました。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
長崎原爆資料館の11時2分を指して止まった柱時計を見た時、時計から原爆の恐ろしさを感じ、衝撃を受けました。旧城山国民学校では当時学校にいた教職員31人のうち28人が亡くなったと聞いて驚きが残せなかつたです。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
もし、物語の主人公が私だったら、失ったものの悲しみが立ち直れないと思います。被爆を経験した子供たちがどんなに遠くても学校に行きたいという想いは現代の子供たちに伝えたいと思いました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
私が感じる「平和」「幸せだな」と思う瞬間は家族みんなでおリンピックを見ることできる時です。オリンピックは平和でないと出来ないので家族みんなが生活できるのも平和でなければなりません。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

私は思いやりのある行動を心がけて生活していくこと、友達や家族に戦争、核兵器について伝えていくことが「必要だ」と考えました。意見交換の中で「様々な観点で自分の考えを持つなどの意見がありがたし、考えの視野が広がりました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

画面越しでの意見交換でしたが、「平和ひとつとっても様々な意見があり「平和」という言葉の素晴らしさを知ることができました。2つ目のテーマである「平和を実現するためにできること」では、「自ら伝えていく」という意見が多く、伝えることは大切だと感じました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思えますか。

まずは、家族や友達から戦争の恐ろしさ、悲惨さを伝えていくことだと思っています。今回のピースフォーラムに参加して私自身が初めて知ったこと、改めて強く感じたことなどを生活の中から少しずつでも伝えていきたいです。そして、自ら戦争についてもっと学んでいくことが大事だと思っています。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

「青少年ピースフォーラム」を通して今だからこそ人々が忘れかけてしまっている「戦争」「原爆」についてもっと伝えていかなければならないという想いが一層強くなりました。現在残されている遺構は当時の人々から現代の人々の並々ならぬ努力があったからこそ成り立っているものだと感じ、現代から次世代に繋いでいくために私が何ができるかを考えたいです。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立金ヶ作中学校	学 年	2	年 生
氏 名	岡田 隼			

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
奥村さんやその兄弟たちがたまた一日に引き裂かれてしまった。
奥村さんやその兄弟たちがとても可哀そうで切なかった。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
どんなものがあるのかかとてもわかりやすく学べた。
いつか資料館や遺構に行ってみたいと思った。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
長崎原爆の規模や悲惨さについてよく分かった。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。 また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
オリンピックが開催できることが「平和」だと考えた。
みんなでどんな時平和だと思うかと話し合った。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

人を許すとか平和になるための一歩だと考えた。
みんなでどうすれば世界が少しでも平和になるのかを
話し合った。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

やっぱりこの日常がみんなにとっての平和なんだなと
つくづく実感した。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、
「平和」を実現するためにできることは何だと思いますか。

- ・戦争の悲惨をちゃんと後世に伝えていく
- ・他人の意見を否定するのではなく、ちゃんと聞いて尊重
する
- ・かっとなってもすぐに怒らない
- ・相手のことも考える

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

11月に載っていた写真が生々しくて原爆を怖いな
と心から思った。
これから二度と戦争が起きないように、僕らが出来
ることをやしていきたい。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	和名ヶ谷中学校	学年	3年生
氏名	鈴木 賢い		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
原爆の悲惨さを感じた。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
今なお やけどや後遺症に悩んでいる 人達がいて、原爆がひどかった事を感じたし、 白山国民学校の建物を見ても、さらに戦争 の悲惨が分かった。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
紙芝居で、リアルに原爆の事が あかすかった。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。 また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
「当たり前なことが当たり前に見えること」 いつもできている事が一瞬にして失なわれた悲惨 さについて話し合った。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

人と人との間で"の争いや言い合いで"
人の尊重を忘れず"感謝する事の大切さを
話し合った。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

人それぞれ考え方や感じ方が違う中で"
この意見交換を通じて、みんなで1つの意見を
尊重し、話し合う事の大切さについて知った。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、
「平和」を実現するためにできることは何だと思いますか。

日々感謝。

反連と過ごす時間をずっと笑顔でいられる
ように、振舞う。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

意見交換会で、みんなで1つになれた事が"
すごく印象に残った。

この青少年ピースフォーラムで"経験した事を、
色々な人に伝えて原爆の悲惨さを、
広めていきたい。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	松戸市立和名ヶ谷中学校	学 年	/	年生
氏 名	松本 華子			

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）
本などで知るよりも、実際に体験したことを聞く方が、原爆の恐ろしさ、悲惨さをより感じる事ができました。
(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）
長崎では、原爆のことを知ってもらうために小学校や鳥居などを残していることが分かった。紹介していた遺構などを実際に見に行ってみたいと思った。
(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）
原爆に負けず、別の学校の教室をかりて授業を続けてそこから、子どもたちへの思いを感じる事ができました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。
考え 家族がいること。(一緒にいれること) 他の人などは好きなことができる(歌う)ことや、学校に行けることなどができて、いまはできるけど、戦時中はできなかったなど話し合った。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

考え 人への思いやり
貧しい人々への寄付や、英語を覚えている国々に行くなどの考えがでた。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

意見交換をしていろいろな意見を知ることができ、
いろいろな意見から新しい意見を考えることもできた。
皆が発言できて楽しかった。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、「平和」を実現するためにできることは何だと思いませんか。

生活に困っている国などのことについて調べ、その国のことを少しでも知る。他にも、スーパーやコンビニのレジの横にある寄付箱に寄付するという自分ができる身近なことをコツコツとやっていく。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

「令和3年度 青少年ピースフォーラム」に参加して

中学校	光英 VERITAS 中学校	学年	3 年生
氏名	前原 凜		

1. 次の内容について、学んだこと、感じたことなどを書いてください。

(1) 被爆体験講話（奥村アヤ子氏の講話）

被爆当時のことを実際に聞くのは初めてでしたが、その時の様子や気持ちが伝わってきて聞いていただけでも辛く感じました。

(2) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ①」（資料館・遺構などのガイド）

当時の木や程が今も残っていると知り、原爆の歴史が形でも今にも残り伝わっていることがすごいと感じました。一度途絶えそのにりながら生きて続けた人は本当に素敵な方のだと思いました。

(3) 平和学習「長崎原爆の実相について学ぶ②」（紙芝居）

原爆の投下によってとても多くの命が失われてしまい、子どもたちも大勢犠牲になりましたが、そんな中でも前を向いて強く生きていこうとした人たちの姿勢に感動しました。

2. 意見交換について書いてください。

(1) 意見交換の1つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

私は「ご飯をおいしく食べられるとき」に幸せだと感じると考えました。意見交換ではグループで一貫して、「日常の細やかなことで感じる幸せが平知に伝わっている」とまとめられました。

(2) 意見交換の2つ目のテーマに対して、あなたはどのようなことを考えましたか。
また、意見交換ではどのようなことを話し合いましたか。

私は「お互いを共有する」ということが平和を広げていく
という意見でした。グループで全員の意見をまとめていく
と、「相手や周囲を理解することが大切だ」と存りました。

(3) 意見交換を通じて、考えたこと、感じたことなどを書いてください。

この意見交換において、自分の考えだけでなく他の人の
考えについても考えたいということによって平和について
より理解が深められただけでなく、視野を広げる
こともできたと感じました。

3. 今回の青少年ピースフォーラムに参加した経験を踏まえ、あなたが今後、
「平和」を実現するためにできることは何だと思えますか。

今日の貴重な経験を大切にするとともに、この機会に
自分が学んだことや新たに生まれた考えなどを言葉にし
て周りに伝えることが平和につながると思っています。
周りに伝えることで自分の意見をより深められるのに加え、
周りにも考えを共有しきっかけを作れるので、「平和」を考
える輪が広がっていくと考えたからです。

4. その他、印象に残ったことや伝えたいことなど、自由に書いてください。

一番印象に残っているのは被災体験講話です。
教科書に書いてある文字を読んだときには感じることので
きない重みを感じました。自分の言葉で伝えることの大切さ
を痛感し、非常に貴重な経験になったと感じています。
平和について少しでも興味をもち自分の考えを共有する
ことが大切だと学べる機会ができて良かったです。

公益財団法人長崎平和推進協会が発行する会報「へいわ」171号に、青少年ピースフォーラム参加アンケートへの松戸市参加者の回答が取り上げられました。（会報5ページ目に掲載）

くにさき みわこ

國崎 美和子（小金中学校 2学年）

「皆の意見が合わさって新しい意見が生まれたときは、話し合いて凄いなと思いました。少しの話し合いでより平和な世界に近づく方法ができたからです。」



会報は「公益財団法人 長崎平和推進協会」のWeb サイトに掲載されています。
<https://www.peace-wing-n.or.jp/backnumber.html>

長崎平和宣言



以下、31～35ページまで

長崎市「被爆76周年（令和3年度）長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典パンフレット」から抜粋
(https://www.city.nagasaki.lg.jp/heiwa/3020000/3020300/p037346_d/fil/PDF.pdf)

長崎平和宣言

今年、一人のカトリック修道士が亡くなりました。「アウシュビッツの聖者」と呼ばれたコルベ神父を生涯慕い続けた小崎登明さん。93歳でその生涯を閉じる直前まで被爆体験を語り続けた彼は、手記にこう書き残しました。

世界の各国が、こぞって、核兵器を完全に『廃絶』しなければ、地球に平和は来ない。
核兵器は、普通のバクダンでは無いのだ。放射能が持つ恐怖は、体験した者でなければ分からない。このバクダンで、沢山の人が、親が、子が、愛する人が殺されたのだ。
このバクダンを二度と、繰り返させないためには、『ダメだ、ダメだ』と言い続ける。核廃絶を叫び続ける。
原爆の地獄を生き延びた私たちは、核兵器の無い平和を確認してから、死にたい。

小崎さんが求め続けた「核兵器の無い平和」は、今なお実現してはいません。でも、その願いは一つの条約となって実を結びました。

人類が核兵器の惨禍を体験してから76年目の今年、私たちは、核兵器をめぐる新しい地平に立っています。今年1月、人類史上初めて「全面的に核兵器は違法」と明記した国際法、核兵器禁止条約が発効したのです。

この生まれたての条約を世界の共通ルールに育て、核兵器のない世界を実現していくためのプロセスがこれから始まります。来年開催予定の第1回締約国会議は、その出発点となります。

一方で、核兵器による危険性はますます高まっています。核不拡散条約（NPT）で核軍縮の義務を負っているはずの核保有国は、英国が核弾頭数の増加を公然と発表するなど、核兵器への依存を強めています。また、核兵器を高性能のものに置き換えたり、新しいタイプの核兵器を開発したりする競争も進めています。

この相反する二つの動きを、核兵器のない世界に続く一つの道にするためには、各国の指導者たちの核軍縮への意志と、対話による信頼醸成、そしてそれを後押しする市民社会の声が必要です。

日本政府と国会議員に訴えます。

核兵器による惨禍を最もよく知るわが国だからこそ、第1回締約国会議にオブザーバーとして参加し、核兵器禁止条約を育てるための道を探ってください。日本政府は、条約に記された核実験などの被害者への援助について、どの国よりも貢献できるはずです。そして、一日も早く核兵器禁止条約に署名し、批准することを求めます。

「戦争をしない」という日本国憲法の平和の理念を堅持するとともに、核兵器のない世界に向かう一つの道として、「核の傘」ではなく「非核の傘」となる北東アジア非核兵器地帯構想について検討を始めてください。

核保有国と核の傘の下にいる国々のリーダーに訴えます。

国を守るために核兵器は必要だとする「核抑止」の考え方のもとで、世界はむしろ危険性を増している、という現実を直視すべきです。次のNPT再検討会議で世界の核軍縮を実質的に進展させること、そのためにも、まず米ロがさらなる核兵器削減へ踏み出すことを求めます。

地球に住むすべての皆さん。

私たちはコロナ禍によって、当たり前だと思っていた日常が世界規模で失われてしまうという体験をしました。そして、危機を乗り越えるためには、一人ひとりが当事者として考え、行動する必要があることを学びました。今、私たちはパンデミック収束後に元に戻るのではなく、元よりもいい未来を築くためにどうすればいいのか、という問いを共有しています。

核兵器についても同じです。私たち人類はこれからも、地球を汚染し、人類を破滅させる核兵器を持ち続ける未来を選ぶのでしょうか。脱炭素化やSDGsの動きと同じように、核兵器がもたらす危険についても一人ひとりが声を挙げ、世界を変えるべき時がきているのではないのでしょうか。

「長崎を最後の被爆地に」

この言葉を、長崎から世界中の皆さんに届けます。広島が「最初の被爆地」という事実によって永遠に歴史に記されるとすれば、長崎が「最後の被爆地」として歴史に刻まれ続けるかどうかは、私たちがつくっていく未来によって決まります。この言葉に込められているのは、「世界中の誰にも、二度と、同じ体験をさせない」という被爆者の変わらぬ決意であり、核兵器禁止条約に込められた明確な目標であり、私たち一人ひとりが持ち続けるべき希望なのです。

この言葉を世界の皆さんと共有し、今年から始まる被爆100年に向けた次の25年を、核兵器のない世界に向かう確かな道にしていきたいと思います。

長崎は、被爆者の声を直接聞ける最後の世代である若い皆さんとも力を合わせて、忘れてはならない76年前の事実を伝え続けます。

被爆者の平均年齢は83歳を超えています。日本政府には、被爆者援護のさらなる充実と、被爆体験者の救済を求めます。

東日本大震災から10年が経過しました。私たちは福島で起こったことを忘れません。今も続くさまざまな困難に立ち向かう福島の皆さんに心からのエールを送ります。

原子爆弾によって亡くなられた方々に哀悼の意を捧げ、長崎は、広島をはじめ平和を希求するすべての人々とともに「平和の文化」を世界中に広め、核兵器廃絶と恒久平和の実現に力を尽くしていくことを、ここに宣言します。

2021年（令和3年）8月9日

長崎市長 田上富久

1. 小崎登明

三菱兵器製作所の少年工員として働き、17歳の時に住吉トンネル工場で被爆しました。爆心地から約500メートルの家には母とは二度と会えず、孤児となり、長崎市聖母の騎士修道院へ入りました。長年、被爆体験を語る語り部としても活動し、2021（令和3）年4月に93歳で亡くなりました。

著書に「長崎オラショの旅」「西九州キリシタンの旅」「長崎のコルベ神父」「十七歳の夏」「春いつまでも」などがあります。

小崎さんが慕い続けたコルベ神父は、ポーランド生まれのカトリック司祭です。宣教活動のために、1930（昭和5）年に長崎に来て聖母の騎士修道院をつくり、6年後にポーランドに戻りました。1941（昭和16）年8月にアウシュビッツ収容所で、死刑宣告を受けた家族を持つ一人の父親の身代わりを進んで引き受け、亡くなったことから「アウシュビッツの聖者」と呼ばれています。

2. 核兵器禁止条約

核兵器は一旦使用されれば、取返しのつかない甚大な被害を人間や環境に与えます。それは戦争での使用だけでなく、核兵器が存在する限り、誤って使われたり、テロなどに使われたりする危険性があります。NPT（3で解説）で約束された核軍縮が進まない状況に不満を持つ国々の間で、核兵器を法的に禁止しようとする動きが、2010（平成22）年頃から高まりました。

そのような核兵器を持たない国々の主導のもと、三度にわたる核兵器の非人道性を考える国際会議の開催などを経て、2017（平成29）年7

月、国連加盟国の6割を超える122か国が賛成し、核兵器禁止条約が採択されました。

条約の前文には、被爆者の苦しみと被害を深く心に留めるとあります。被爆者の「私たちの経験を、もう、誰にもさせたくない」という願いを、国際社会がしっかりと受けとめました。

しかし、採択されただけでは、条約は力を持ちません。本当に力を持つためには、それぞれの国の議会等が国内法にしたがって条約を認め、締結する意志を最終的に決定しなければなりません。これを「批准」といいます。

2020（令和2）年10月24日、批准した国が発効要件の50か国に達し、その90日後の2021（令和3）年1月22日に条約は発効しました。

なお、条約では、発効から1年以内に締約国会議が開かれることになっており、条約の実効性を高めていくための会合が行われます。条約に批准していない日本を含む核兵器に依存する国々などは、オブザーバーとして出席するよう要請されます。

3. 核不拡散条約（NPT）

核不拡散条約(NPT)は、核保有国が増える(核が拡散する)ことを防ぐ目的でつくられた条約で、1970（昭和45）年に発効しました。2003（平成15）年1月に一方的に脱退を表明している北朝鮮も含めると、現在の国連加盟国の中で、インド、パキスタン、イスラエル、南スーダンの4か国を除く191か国・地域が加入しています。

主な内容は、以下の3つです。

(1) 「核不拡散」

当時、すでに核兵器を保有していたアメリカ・ロシア（旧ソビエト）・イギリス・フランス・

中国の5か国（核兵器国）だけに核兵器の保有を認め、それ以外の国（非核兵器国）が保有することを禁止しています。

(2) 「核軍縮」

5つの核兵器国には、保有する核兵器の全廃に向けて誠実に努力していくことが義務付けられています。

(3) 「原子力の平和的利用」

非核兵器国には、原子力の平和利用が認められており、原子力技術や核物質を使用する場合は、必ずそれが平和利用であるかどうかを確認するために、国際原子力機関（IAEA）の査察を受ける義務があります。

4. 市民社会

近年、貧困、人権、環境、軍縮といった地球規模の課題において、NGO（非政府組織）やNPO（非営利組織）、民間財団などの市民の組織が大きな役割を果たしており、こうした組織が公共を担う社会を「市民社会」といいます。

「市民社会」は政府や企業と並び、社会を構成する重要な要素です。政府や企業に対して情報を提供したり、活発な社会的運動を行ったりすることで、人々に関心を与え、時には国際社会に大きな影響を与えます。

核兵器の禁止や廃絶に向けた動きにおいても、国内外の市民社会組織が大きな役割を果たしています。今後ますます市民社会の役割は重要となり、市民社会を構成する私たち一人ひとりが声を上げ、行動することが大切です。

5. 「核の傘」ではなく「非核の傘」

相手国が攻撃してきた場合、核兵器で反撃す

るという姿勢を見せることによって相手国の攻撃を思いとどませようとするのを、核兵器の抑止力といいます。しかし、抑止力に固執すると、お互いに相手国より強力な核兵器を保有したり開発しようとしたりするために、核の拡散につながり、逆に核兵器による攻撃の危険性が高まる可能性があります。

日本や韓国、オーストラリア、NATO（北大西洋条約機構）に加盟する非核保有国は、いずれも核兵器は保有していませんが、アメリカの持つ核兵器の抑止力を「核の傘」に例えて、その抑止力に依存している国々です。これに対し、核兵器の抑止力に頼らない方法で国の安全を保障しようとする考え方を、「非核の傘」といいます。長崎市は、その現実的で具体的な方法として、北東アジア非核兵器地帯（6で解説）を提案しています。

6. 北東アジア非核兵器地帯

地域の国々が条約を結び、核兵器の製造、実験、取得、保有などをしないと約束した地域のことを「非核兵器地帯」といいます。条約によって核戦争の危機をなくし、国際的な緊張をやわらげることで、核兵器の役割を減らし、核保有国が核兵器を開発したり、保有したりする動機をなくしていくことにもつながります。

地球の南半球は、1967（昭和42）年のラテン・アメリカ核兵器禁止条約のほか4つの条約（南極条約、南太平洋非核地帯条約、アフリカ非核兵器地帯条約、東南アジア非核兵器条約）により、既に陸地のほとんどが非核化されています。

北半球でも、1998（平成10）年にモンゴルの「非核地位」が国連で認められ、2009（平成21）

年には中央アジア（ウズベキスタン、タジキスタン、キルギス、トルクメニスタン、カザフスタン）非核兵器地帯条約が発効しています。

「北東アジア非核兵器地帯」とは、日本と韓国と北朝鮮の3か国を「非核兵器地帯」にしようとするものです。条約が実効力を持つためには、3か国に核兵器が存在せず、近隣の核保有国（アメリカ、ロシア、中国）が、3か国を核兵器で攻撃をしないと約束することが必要になります。

2018（平成30）年以降に高まった朝鮮半島の非核化に向けた国際的な動きを千載一遇の好機として、北東アジア全体の平和のために日本政府が果たすべき役割は大きいといえます。

7. NPT再検討会議

核不拡散条約（NPT）では、条約が定める義務の履行状況を確認し、締約国の取組みを強化するため、5年毎に再検討会議と、その間に3回から4回の準備委員会が開催されます。

2015（平成27）年の再検討会議において、参加国の多くが核兵器の非人道性（一発で多くの人々を無差別に殺傷する核兵器を使用することは、人間として許されないこと）に言及し、核兵器禁止に向けた法的枠組みについての議論を速やかに開始すべきであると訴えました。

2020（令和2）年の再検討会議は2020年4月～5月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で延期となっています。

8. SDGs

SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）は、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」持続可能でよりよい社会の実現

を目指す世界共通の目標です。

2015（平成27）年の国連サミットにおいて、すべての加盟国が合意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられました。

貧困や飢餓などのいまだに解決が難しい問題、資源やエネルギーの有効活用、地球環境や気候変動などの地球規模で取り組むべき問題や、平和で平等な社会の実現など17のゴールを定め、2030（令和12）年までの問題解決を目標としています。

9. 「平和の文化」

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）が提唱した平和を構築するための考え方のひとつです。その理念は、ユネスコ憲章の前文に「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」と明記されています。

世界には多様な文化や生活様式などがあります。こうした違いが分断を生み、それを力で解決する「戦争の文化」ではなく、相手の立場に立って話し合ったり交流したりしながら、お互いの理解を深め、信頼を築いていく「平和の文化」を育てることが大切です。

そのために、まずはスポーツや芸術などのさまざまな入口を通して、多くの人々が当事者として日常の中で平和について考え、行動し、平和の輪を広げていくことが必要です。

「平和の文化」を長崎のまちに根付かせ、世界に広げるために、長崎市は2021（令和3）年度から「平和の文化」の醸成に取り組んでいます。



令和3年度
青少年ピースフォーラム(オンライン開催)
参加事業報告書

松戸市
総務部総務課

令和3年10月発行